告　　辞

新緑と明るい日差しの中、薄紫色のオクラレルカの花が咲き始め、キャンパスがひときわ輝きを増す季節となりました。この躍動感溢れる美しい季節に、ご来賓、保護者並びに同窓生の皆様のご臨席のもと、平成三十年度琉球大学入学式および大学院入学式を盛大に挙行できますことは、大きな喜びでございます。

新入生の諸君！ご入学おめでとうございます。琉球大学の在学生並びに教職員を代表して、諸君のご入学を心から歓迎いたします。また、これまで深い愛情で温かく見守り支えてこられました、ご家族・保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

ただ今、学部長及び研究科長の申請に基づき、琉球大学にめでたく入学を許可されたのは、人文社会学部と国際地域創造学部の一期生五五二名を含め、学部一五八四名、特別支援教育特別専攻科四名、大学院二九五名、総数一八八三名の諸君です。限りない可能性を秘め希望に満ちた一八八三名の諸君を、琉球大学のキャンパスで心待ちしておりました。

本日から新しい学生生活を始める諸君に、学びと交流の舞台となる琉球大学の生い立ちをお話いたしましょう。琉球大学は、戦後の「新しい沖縄の建設はまず人材の養成から！」という、県民やハワイを中心とする海外に移住された県系人の方々の強い願いによって、沖縄史上初の大学として一九五〇年五月に開学しました。来る二〇二〇年には、創立七〇周年の節目を迎えます。設立後は、ミシガン州立大学の教授陣の指導によって大学運営の基礎が築かれ、一九六六年から琉球政府立大学となりました。そして、一九七二年の沖縄の日本復帰を機に国立大学となり、さらに、二〇〇四年から国立大学法人となって、現在に至っております。

このように、琉球大学が歩んできた道のりは、他の国立大学には見られないとてもユニークなものですが、その底流には、地域の人々の強い願いに応えることを使命とする、「地域に貢献する大学」という考えが脈々と存在し続けているのです。そのことを、諸君の胸にしっかりと刻んでください。

さて、諸君は、自らの人生の中で学部生においては四年または六年間、大学院生においては二年、三年または五年間を琉球大学で過ごすことになりました。

人生百年時代という中にあって、この短い時間をどう過ごすかが、卒業・修了後の諸君の生き方に大きく影響します。諸君は、入学に際して、自らの抱負や希望を持っており、他人からとやかく言われる筋合いはないと思っていることでしょう。それを承知の上で、大学が諸君の期待にどう応え、諸君に何を期待しているかについて、聞いていただきたいと思います。

大学が皆さんに対して何を用意しているかについて、二、三日前から始まっているオリエンテーションを通して、諸君はおおよそのイメージをもつことができたかと思います。オリエンテーションでは、学力の三要素とか、アクティブラーニング、琉大独自の指導教員制度や除籍制度などについて、説明を受けたことでしょう。

本学の正規の授業では、諸君がクラスの受講生と主体的に協働して学べるカリキュラムを数多く用意しています。専門分野に関する知識・技能の確実な修得はもちろんのこと、それらを活用して思考力や判断力、表現力も身に付けてもらうことにしています。そのような学びを通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など、成果を生み出す行動特性が自然と身につくようになると信じています。

正規の授業のほか、海外や地域に出て視野を広げる機会も数多く用意しています。毎年、百名余りの学生を異文化体験に送り出す留学プログラムや、企業や業界団体などでのインターンシップや子どもの居場所学生ボランティアセンターでの体験などを用意しています。このような大学内外での学びは、きっと諸君の人生の力となり、人間性を豊にすることにつながります。琉球大学は、そのような諸君を全力でサポートいたします。

修士課程、専門職課程および博士課程の大学院生にあっては、学術研究を究める過程で、研究者としてあるいは高度専門職業人としての、倫理性に裏付けられた深い学識及び卓越した能力を十二分に培っていただきたいと希望します。大学院生諸君の琉球大学における研究生活が、より充実したものとなるよう、学術発表支援をはじめ、いくつかの研究支援策を用意しています。それらを活用して、意欲的に研鑽を積み重ねてもらうよう期待いたします。

ここで、諸君のこれからの大学生活へのエールに代えて、経済学者であり哲学者であり、教養あふれる公共知識人の体現者と言われたジョン・ステュアート・ミル（J. S.ミル）の言葉を紹介します。ミルは、学校教育を一切受けておらず、

大学で教えたこともない人ですが、『経済学原理』という当時の経済学界の頂点に君臨する専門書を出版するなど、学者であり政治家でもあった天才です。スコットランドのセント・アンドルーズ大学の名誉学長に選出された時の就任演説を収めた『大学教育について』（岩波文庫）から引用します。

「諸君は、将来、人類に知的な恩恵を施す人々を歓迎し、激励し、援助する立場の人々の一員となります。そしてまた、諸君は、もしその機会があるならば、人類に知的恩恵を施す人々のなかに加わるべき人々であります。意気消沈しているときは、そのような時間と機会がないように思われるかも知れませんが、そんなことで勇気を失ってはなりません。機会をとらえる方法を知っている人は、機会というものは自分で創り出すこともできるということに気がついています。われわれができることは、時間があるかどうかに左右されるのではなく、むしろその利用法次第なのです。諸君や諸君と同じ環境にある人こそ、次の世代を担う国の希望であり財産であります。」（一三三頁）

学生時代はあっという間に過ぎ去ってしまいます。卒業や修了の要件を満たすことだけでよしとしてはいけません。チャンスを自ら作り出し、自分の将来についてと同じように、身の回りで起きている様々な問題に対しても、思考停止をせずに関心を寄せ、しっかりした考えをもつことが大切です。

人間は誰もが人としての尊厳をもち、幸せに生きる権利を有しています。しかし現実は、地域紛争や人種差別、難民、失業、貧困の存在などによって、そのような尊厳や権利をないがしろにされている人々が世界中にいて、その人たちは不本意ながら苦悩の毎日を送っているのが現実です。

どうぞ、様々な環境下に置かれている人々への寛容さと弱者への思いやりをもった優しい人間になって下さい。諸君の豊かな想像力 imagination と創造力 creativity を活かして、感性に富み個性あふれる人格形成の場として大学を存分に活用し、豊かな人生となる糧を積み重ねていくよう心から願ってやみません。本日は誠におめでとうございます。

二〇一八年四月六日
国立大学法人琉球大学
第十六代学長　大城　肇